

安心して暮らせるまちに
～防火防災活動

昨年、西区内では放火などによる火災が相次いで起こりました。この状況に危機感を抱いた琴似・二十四軒・二十四軒東の三連合町内会は、合同で「放火防止対策推進委員会」を平成十八年十二月に立ち上げました。

今年二月、地域内の町内会を対象に「放火防止診断」を行いました。これは市消防局が作った点検票を使い、ごみステーションはきれいか、人目の届かない場所がないかなど三十項目の設問に答え、火災が起こりやすい危険度を町内会ごとに診断するものです。三月末に診断結果を取りまとめ、各町内会に防火上の注意点を伝えました。この結果を、将来的には防火マップ作製など、防火意識の啓発に使うことを検討しています。

みんなの力で防火・防災

「災害は忘れたころに起こるものと、日ごろから意識することが大事です」と話すの



は、二十四軒中央町内会の山内敦会長です。防火・防災活動に力を入れている二十四軒中央町内会では、積極的に自主防災訓練を行っていきます。また、防火の観点から、パートナーシップ除雪による生活道路の除排雪を始めたといっています。



▲山内敦さん

きっかけは、七年前の冬に起きた家屋の火災。当時は路肩に雪がたまって道幅が狭く、駆け付けた消防車が火災現場に近づけず消火活動が難航しました。この苦い経験から、緊急車両の通路確保のため、住民に除雪費用を負担してもらうことにしました。初めは費用負担の説得に苦労しましたが、実際に除雪を行ったところ「道が広くなった」と評判が良く、今では住民が積極的に除雪に協力してくれるようになりました。

そのほか、ごみステーションの巡回清掃や「火の用心」の見回りなど、防火防止の努力を惜しみません。

「地域にかかわるみんなの協力で、道路もまちもきれいにすれば、明るく住みよいまちになります」と、山内さんは自信を持って話します。

八軒中央

みんなの笑顔が活動の源
～地域交流活動

八軒十条東町内会の梅村智会長は、町内会活動に携わって三十九年になります。「町内会活動はボランティア。活動が生活の負担になってはだめ」。自分の都合に合わせて無理をしないことや家族の協力があるから、長く活動を続けられるといっています。



▲梅村智さん

梅村さんの町内会では、新川沿いの桜並木の清掃や道路沿いにコスモスを植えるなどの美化活動と、盆踊り大会などの住民交流活動が盛んです。中でも盆踊り大会は、昭和四十八年から毎年必ず開催されています。地域の人々が一堂に集まる大事な交流の場であり、昨年は三百人以上の人が踊りやゲームに興じました。「大会運営はとても忙しい。でも、参加者の笑顔を見ると、それまでのしんどさも吹き飛びます」と、楽しそうに話します。

桜並木は、八軒側に桜が植えられて四年が過ぎ、やっと細かい枝に少し花が付き始めてきました。また歩道のコスモスは、夏から秋に花を咲かせ、

道行く人の心を和ませていきます。「桜やコスモスがきれいに咲く美しいまちを、孫の世代に残していきたい」と抱負を語ります。

花開いて蝶おのずから来る

町内会では、役員の人たちと協力してごみステーションの清掃や夜間の防犯見回りなども行っています。特にごみ出しは、マナーを守らない家にごみ出し指定日を守るよう注意するなど、粘り強く啓発を続けていきます。「お互いに気持ち良く暮らすために、最低限のルールを守ってほしい」と訴えます。

そんな梅村さんの座右の銘は「花開いて蝶おのずから来る」という言葉。これは、きれいな花は咲いているだけで蝶が自然に集まる、という意味。「まちもきれいにしていると、ここに住みたいと思う人が自然に集まるようになる」と信じています」と力強く語ります。

この言葉を胸に、今日も梅村さんをはじめ町内会役員の方々は、みんなの笑顔のために活動します。

